

研修の実施状況

(1) 講義「島根県の防災対策」

島根県総務部消防防災課 村上管理監



島根県の災害対応の体制等を解説した。

(2) 講義「気象情報の基礎知識」

松江地方気象台防災業務課 山本実防災気象官

講義「土砂災害情報の基礎知識」

島根県土木部砂防課 大賀企画幹

講義「水防情報の入手方法と活用」

島根県土木部河川課 中本主幹



気象台や県土木部から異常気象時に発表される、気象情報や土砂災害情報、水防情報といったものの意味と、その入手や利用、活用について、災害の映像をまじえて解説した。

(3) 講義「まちづくりから見た集落のコミュニティカ」

関西学院大学観光学・まちづくり研究センター 山泰幸 センター長

「災害に強いコミュニティをつくることは可能だが、災害に『だけ』強いコミュニティはないだろう。そのようなコミュニティは、防災以外の様々な面でも強い。

いつくるか知れない災害のためだけのまちづくりは、持続する（住民についてきてもらう）のが難しい。防災だけ前面に出すのではなく、すそ野を広げて何か他に関係するものを探してみよう。」



(4) 自主防災組織の活動事例発表

(出雲市) 朝山地区災害対策本部 渡部幸子 ボランティア長



平成18年7月19日の豪雨災害の状況を、被災後の写真をまじえて紹介。「災害の記憶が風化しつつあるが、隣近所をどう支えるか、考えてほしい。」

(松江市) 大野地区自主防災隊 山野健 隊長

「『地域ぐるみ』をキーワードにして、地域活動のコンセプトに入れている。自治会単位での活動が基本だが、現状は実質的に人員が不足している。

協働が基本。連携協力は必ず必要であり、地区の人たちにも関わってもらおう。これからは、過去の様々な事業によりできた成果物を活用しながら、まちづくりの中で防災も少しずつ進めていきたい。」



(5) 講義「防災・減災と男女共同参画」

(特活) NPO政策研究所(元・神戸新聞論説委員) 相川康子 専務理事



「防災を、復旧復興までの長いスパンで考えると、女性を含め、様々な主体の参画が必要ながみえてくる。

減災を目標にした普段からのまちづくりが大事で、脆弱性をみつけ克服しておく。

自主防災組織リーダーはまだまだ男の仕事と思われている。人材がないのか、探し方が分からないのか。防災リーダーには、男女共同参画の意識を持ってもらうことが求められる。

21世紀の防災は、たくさんの人が集まって知恵を出すしかない。まずはみんな意見を出し合えるまちづくりを。男女共同参画の徹底はその一步。」

(6) 講義「地域防災のすすめ方」

山口大学大学院 瀧本浩一 准教授

「島根県は災害がくる県なので、防災をやってください。しかし知識の集積だけで人は助けられない。

災害が何なのか知らなければ、予防はできない。大事なのは、

地域の災害を知り、考え、防災観を養うこと。(どんな災害が起こるのか、自分たちの地域にも起こるのか)

その上で災害に備え、対応する。

地域を『面』で捉えて理解し、次に『時間』の流れを考え、それを実働訓練で検証していくことが大切。」



(7) 演習「災害図上演習(DIG)」

山口大学大学院 瀧本浩一 准教授

NPO法人ぼうぼうネット 山崎隆弘 事務局長

参加者は14の班に分かれて地図を囲み、地域の情報を書き込んでいったあとに、風水害と地震のシナリオで『面』と『時間』を考えた。

